

# 消費者環境教育プログラムおよび教材の試行に関する報告

## 目次

1. 消費者環境教育プログラムおよび教材の試行 .....	1
2. 試行時に取り上げた教材の分野 .....	4
3. 参加者数および参加者の属性 .....	4
4. 使用した教材 .....	5
5. 参加者の評価 .....	5
a. 参加者の満足度 .....	5
b. 講座内容についての評価 .....	6
c. ワークショップ全体についての評価 .....	7
6. 指導者による自己評価 .....	8
a. 講座内容についての成果 .....	8
b. ワークショップ全体についての成果 .....	8
c. 課題と反省点 .....	9
7. 指導者から研修会実施者への要望 .....	11
8. 今後受けたい授業・講座 .....	12
9. 試行結果のまとめ .....	13

## 1.消費者環境教育プログラムおよび教材の試行

平成 18 年度 消費者環境教育指導者育成研修会を受講した指導者(インストラクター)の方々に、研修後 4 ヶ月以内に生徒や消費者に向けた消費者環境教育を試行してもらい、アンケートにご協力いただきました。

参加者の対象を一般消費者とした指導者は 13 名、学校は 7 名、企業の社員研修を実施した指導者は 2 名でした。

ここでは、その結果をまとめたものを掲載しています。

対 象	：平成 18 年度 消費者環境教育指導者育成研修会の受講者(以下、指導者とする)および指導者が試行した授業または講座の参加者
回 収	：指導者 全 34 名中 22 名 参加者 約 780 名中 96 名
内 容	：指導者自身が作成した教育プログラムまたは研修会で紹介した教育プログラムによる消費者環境教育の試行
試行時期	：平成 18 年 9 月 1 日～12 月 31 日

消費者環境教育の授業・講座に関するアンケート  
指導者用 質問表・回答用紙

ご回答いただくにあたって

\* 質問の内容に応じ、選択肢の記号を で囲む、回答欄に内容を記入する、などの方法によりご回答ください。

問1 今回、授業・講座でとりあげた内容はグリーン購入原則のどれに対応しますか。

(複数 可)

グリーン購入総合

必要性の考慮

製品・サービスのライフスタイルの考慮

事業者取り組みの考慮

環境情報の入手・活用

その他(具体的に: \_\_\_\_\_ )

問2 具体的なプログラムタイトル名を記入してください。

( \_\_\_\_\_ )

問3 参加者についてお答えください。

人数: \_\_\_\_\_ 名

対象者: 小学生 / 中学生 / 高校生 / 大学生 / 一般消費者( 代 ~ 代)

/ その他(具体的に: \_\_\_\_\_ )

性別: 男性 / 女性 / 特定なし

その他職種など: \_\_\_\_\_

問4 使用した教材は何ですか?(複数 可)

ア. 研修会で紹介したもの イ. 市販のもの ウ. ご自身のオリジナル教材

問5 あなたから見て、参加者の反応はいかがでしたか?(5段階でお答えください)

よかった

5 4 3 2 1

問6 授業・講座を実施した感想をお聞かせください。

成果

課題・反省点

未踏科学技術協会への要望など

問7 次回の授業・講座実施予定 \_\_\_\_\_ 年 \_\_\_\_\_ 月 \_\_\_\_\_ 日

\* ご協力、大変ありがとうございました。

消費者環境教育の授業・講座に関するアンケート  
参加者用 質問表・回答用紙

ご回答いただくにあたって

\* 質問の内容に応じ、選択肢の記号を で囲む、回答欄に内容を記入する、などの方法によりご回答ください。

問1 あなたについて教えてください。

年齢：        才(ア.学生 イ.社会人 ウ.その他\_\_\_\_\_)

性別：    ア.男性    イ.女性

授業・講座に参加したきっかけ：

ア.告知を見て(a.広告 b.掲示板 c.ホームページ d.インターネット e.その他)

イ.友人・知人からの紹介(紹介者のお名前：\_\_\_\_\_)

ウ.案内が届いた

エ.その他(具体的に：\_\_\_\_\_)

問2 授業・講座の内容についてお答えください。(5段階でお答えください)

ア.講師の説明は分かりやすかったですか？

分かりやすかった

5   4   3   2   1

イ.教材・資料は分かりやすかったですか？

分かりやすかった

5   4   3   2   1

< 分かりにくかった点・改良点があればお書きください。 >

( \_\_\_\_\_ )

問3 今回の授業・講座は、あなたの生活の中で役立つと思いますか？

役立つ

5   4   3   2   1

問4 次に受けるとしたら、どのような授業・講座を希望しますか？(複数 可)

環境に配慮した商品(エコマーク商品など)やその選択・購入

食生活における資源・環境面や安全面などへの配慮

買い物をする際の買い物袋の持参、過剰包装の回避など

ものを大切に使う工夫(長持ちする商品の選択、手入れ・修理など)

生活の中での省エネルギー、節水などの工夫

生活の中でのごみの削減・リサイクル

環境への負荷の少ない交通機関の利用

生活環境の中にある有害化学物質

環境に配慮した商品の開発や生産・販売

環境マネジメントシステム(ISO14001)

その他(具体的に：\_\_\_\_\_)

問5 その他ご意見・ご要望などご自由にお書きください。

( \_\_\_\_\_ )

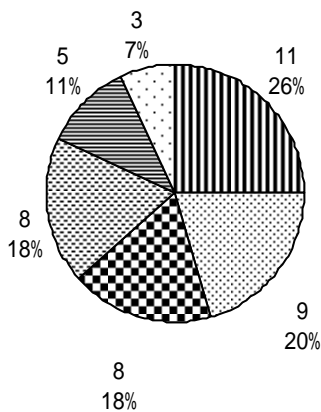
\* ご協力、大変ありがとうございました。

## 2. 試行時に取り上げた教材の分野

当日使用した教材をグリーン購入原則で分類すると以下のようになりました。

- グリーン購入(総合)
- 必要性の考慮
- 製品・サービスのライフスタイルの考慮
- 環境情報の入手・活用
- 事業者取り組みの考慮
- その他

全体



内訳(対象別)

一般 13名・学校7名・企業(社員研修)2名

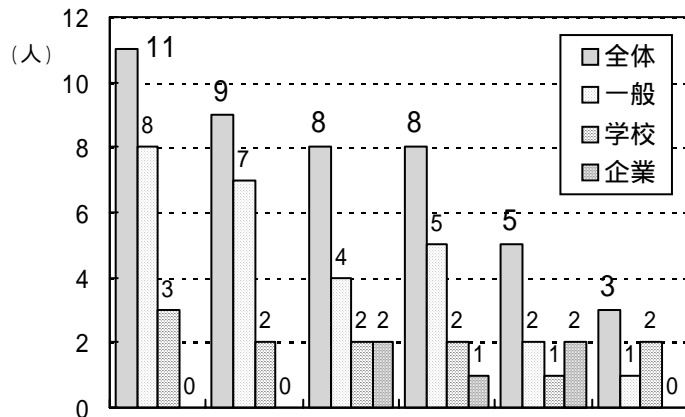
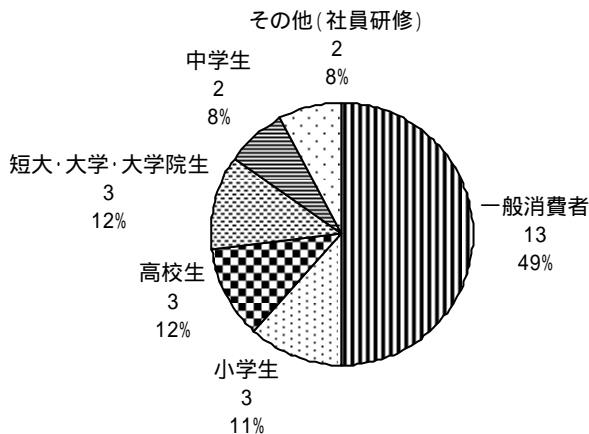


図1 使用した教材の分類

## 3. 参加者数および参加者の属性

参加者のうち一般消費者は、川崎市消費生活モニター、環境・リサイクルリーダー、環境学習リーダー、消費者団体くらしの会会員、ボランティア活動経験者などすでに環境問題に取り組んでいる人が主でした。

区分(複数回答)



1講座における受講者数:最小5名、最大250名

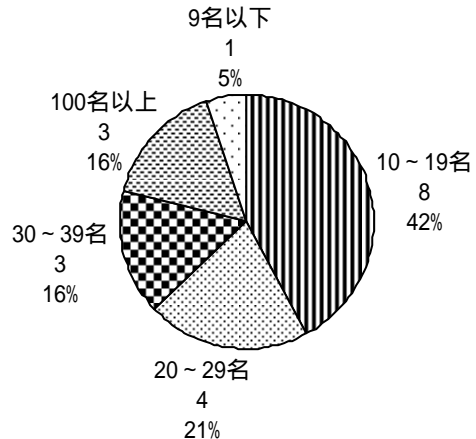


図2 参加者数及び参加者の属性

## 4. 使用した教材

市販の教材を使用した指導者は今回は1名もなく、研修会で紹介して使用された教材を基に自身で工夫して用いた方がほとんどでした。

<教材名>

- ・ モノの履歴書づくり
- ・ 「環境にやさしいお買い物原則」をつくろう
- ・ 商品の「プロフィール」をつくろう
- ・ Who am I?カード

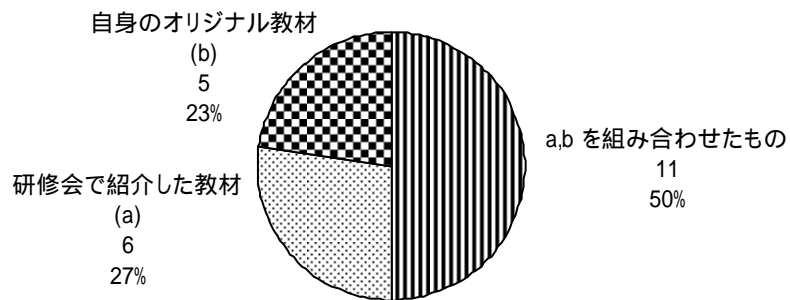


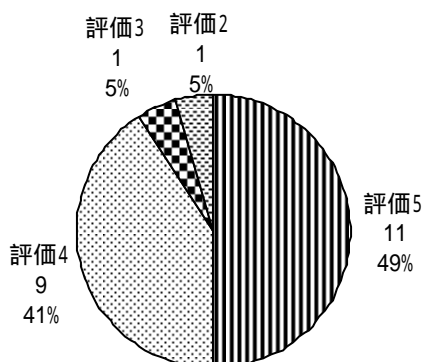
図3 使用した教材の原典(複数回答あり)

## 5. 参加者の評価

### a. 参加者の満足度

指導者が感じた参加者の満足度(左)と参加者自身による講座の満足度(右)を5段階評価で聞いてみました。指導者による評価では90%が、参加者自身は86%が受講の結果を高く評価していました。

指導者が評価する参加者の満足度



参加者自身の評価による満足度

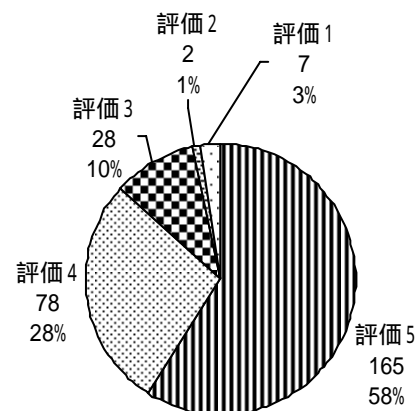
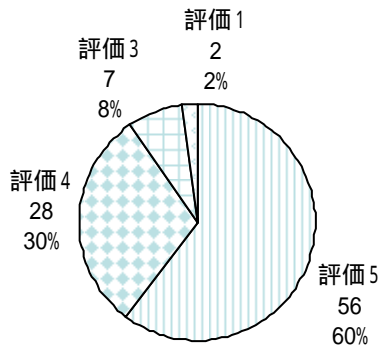


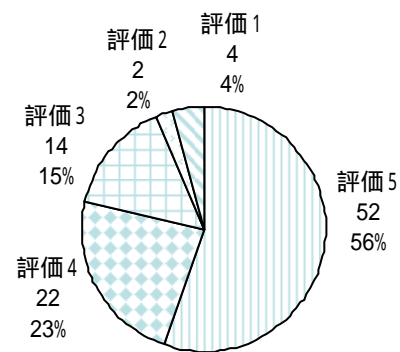
図4 参加者の満足度(数字が大きいほど評価は高い)

また、参加者の満足度の理由として「講師の説明はわかりやすかったか」、「教材・資料はわかりやすかったか」を聞きました。その結果、「講師の説明はわかりやすかった」90%、「教材・資料はわかりやすかった」80%と、ともに好評でした。

講師の説明はわかりやすかった



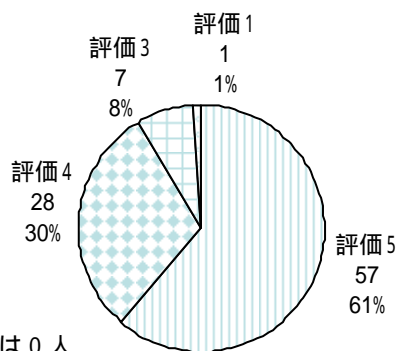
教材・資料はわかりやすかった



\* 評価2は0人

図5 参加者の満足度の理由

更に、「今回の授業・講座はあなたの生活の中で役に立つと思うか」との問いには、90%が役立つと答えていました。



\* 評価2は0人

図6 今回の授業・講座はあなたの生活の中で役に立つか

## b. 講座内容についての評価

<一般消費者を対象とした講座について>

- ・ このような為になる話は今の若者に聞かせてもっと省エネに協力させたい。
- ・ 今日はグリーンコンシューマーの必要性を改めて考える事ができました。
- ・ いつも心にありますが、いざとなった時にまあいいかという甘い考えを起こしてしまうことに気付くことが今日の講習でわかりました。ありがとうございました。
- ・ 全体としてよくまとまっていた。
- ・ 全体を通して講義、見学と講座の企画も考慮されて折り大変学習になりました。
- ・ 教育現場で環境基礎講座等に生かしていきたいと思います。
- ・ 資源循環型社会の実情の一端を理解できました。
- ・ 教材スライド着色、配布資料の1頁に2コマは理解と今後の学習に役立つと感じた。
- ・ 多種類のデータ情報提供に感謝申し上げます。

- ・ 課題定期から対応(提言)に到る流れとしては短時間でよくまとめたと思う。良かった。
- ・ 参加型で大変良い。
- ・ ワークショップ面白かったです。
- ・ ワークショップ等大変良かったと思います。
- ・ ワークショップでお互いの考えや意見を出し合うことは大切だと思います。参考になりました。
- ・ 小中学校の生活科、社会化の授業にも取り入れるとよいのでは、と思います。
- ・ ワークショップの構成が良かった。
- ・ グループワークが良かった。
- ・ 講座の企画のヒントを頂きました。ありがとうございました。
- ・ 今回の講座は大変勉強になった。
- ・ 初めて参加する方のために、自己紹介良い、本人も周囲も。
- ・ 非常によかった。楽しく勉強ができました。
- ・ 洗剤なしで油污れ OK のスポンジは優れたものです。現品をよく見ると意味不明なものもあるのを感じた。
- ・ 実物の商品を教材としたので分かりやすかった。
- ・ 研修の内容について講師がよく理解しており感心した。

改善点として、

- ・ 時間が足りないのもう少し時間をかけてほしい。
- ・ 内容的にはよく分かるが、まとまりが感じられないのと関連性のつながりがない気がする。
- ・ その他いろいろの情報が欲しい。
- ・ スライド暗かった。
- ・ 情報が多すぎて戸惑うことがある。

< 学校で生徒を対象とした授業・講義について >

- ・ このような授業・講座で環境のことについて興味を持ってくれる人が増えるといいです。
- ・ この内容は今後、社会に出る人には絶対必要となることなので、より深く突っ込んだ内容で聞きたいと思います。
- ・ 消費者の立場から環境を改善できるといった内容について非常に興味がわきました。
- ・ グループワークをすることで、他の人の考えが分かった。

## c. ワークショップ全体についての評価

< 一般消費者の評価 >

- ・ 今まで買い物というと価格重視だったのを今後は考えていかなければと思いました。
- ・ 大変に生活面でも勉強になりました。
- ・ 地球全体を通じて考えるべき大きな問題だから、一人ひとり考えて、それを積み重ねていかなければいけないと思いました。
- ・ 参加できてよかった。ありがとうございました。
- ・ 日常生活に毎日必要な心得、これから細かく注意していきたいと思います。
- ・ 日頃何気なく過ごしているが、環境に対する気配りがいかに大切か分かった。
- ・ 大切なことは大概皆知っているのだが、あとは実際に一人ひとりが実行することだと思うが、まだ他人事と思っている節があるのではないか。
- ・ 知らないことの多さに反省してます。
- ・ あまり消費する時に関心を持って読んでいないということに気づきました。
- ・ 「表示に書いてある」のに消費者は知らない、よく分からない、理解できない、…知識を得ることは

大切だと思いました。

#### <学校での生徒の評価>

- ・ 一つの製品を作るのに多くのゴミを出し、その製品自体もいずれはゴミになってしまうという現状を改善すべきであると考えた。
- ・ 物を1つ生産するためには、多大なエネルギーを消費する事が分かったが、具体的にどのようなエネルギーを消費するのかをもう少し詳しく知りたいと思いました。
- ・ 環境を守ろう！
- ・ グループワークでの作業時間が短く、もう少し深く討論できれば更に良かったと思います。
- ・ 自分の居住区内(県内)のエネルギー消費量とかも知りたかったです。

## 6.指導者による自己評価

指導者が現場で実践して得た成果、課題および反省点についての自己評価は以下のようなものでした。

### a.講座内容についての成果

#### <一般消費者を対象とした講座に対して>

- ・ 講義時間 80 分とただの座学だったら恐らくほとんどの人が寝てしまっていたと思う。しかし今回は内容が難しすぎたにもかかわらず、みんな課題にも取り組んでくれて、最後には「長く使える物を買う」という意見を生み出すこともできた。
- ・ ワークショップ形式で盛り上がったと思う。
- ・ ワークショップによるグループ討議が参加者全員楽しく真剣に行われ、評判がよかった。
- ・ ワークショップの目的は果たせたと思う。参加者が活発に意見を出し合い、楽しくワークショップができた。

#### <学校で生徒を対象とした授業・講義に対して>

- ・ 聞く側の姿勢と態度に講義のやり甲斐があり反応が良かった。
- ・ 高校の授業・年間指導計画の中での取り組みであるため、生徒の興味や関心はあるので、一定の成果はあったように思われる。
- ・ 大学生なので授業でしか会わない者も多く、友達以外のメンバーで組んだグループ討議には懸念があったが、担当教師の推察以上に討議が展開されていた。
- ・ 担当教師から、先生方では全くできない授業だったので参考になりましたと、授業の評価は満足いただけました。
- ・ 討議は、話し出すまでに時間がかかったが、話し出すと活発に意見が交換されるようになった。

### b.ワークショップ全体についての成果

#### <一般消費者を対象とした講座に対して>

- ・ 今までほとんど注意を払っていなかったという人たちが多かったようだが、講座を受講したことで、今後、買い物をするとき、商品を選択するとき、環境情報に留意して環境配慮の商品を選んで買いたいという意識が高まったと感じました。
- ・ 買い物をするとき、環境情報を読み取ることの大切さに気付いてくれました。
- ・ 参加者の方からは、とても勉強になり、今後住区の皆さんに紹介していきたいといった意見を頂きました。
- ・ 受講者が、環境学習リーダーや、環境カウンセラーなど、日常地域で活動している人たちであり緊

張したが、逆によく理解していただけたと思う。

- ・商品の表示をじっくり見るということが初めての方が多く、消費生活モニターの方々なので、視点も鋭く成果は大きかったと思う。
- ・地球規模の環境問題の現状を知り、日々のライフスタイルそのものが地球温暖化をはじめとする様々な環境問題と密接に繋がっていることを理解していただけた。
- ・身近なところ、できることから実行に移していかなければという気持ちになっていただけたと思う。
- ・消費者環境教育を進めていく上で、指導者の養成が急務であると思う。
- ・環境活動に従事する団体の会員対象だったので、内容そのものより、ワークショップの手法などの方が興味を中心となった。

#### < 学校で生徒を対象とした授業・講義に対して >

- ・環境に関する質問に来る学生ができた。
- ・環境負荷を考えた研究をするようになった。
- ・事前アンケートで「環境問題の解決を考えて何か行動した事がある」と答えた生徒は 29%、「環境問題を解決するために生活が少し不便になっても仕方ないと思うか」という問いに対して「あまり思わない」と答えた生徒が 33%だったが、授業後の感想には、全員が「自分の問題として取り組みたい」と答え、意識の向上につながったと考える。
- ・自分が今まで購入する際の基準は、価格だけであったという生徒が多くあったが、授業後は環境の視点からも商品選びをしないといけないと気づいた生徒が少し増えた。

#### c. 課題と反省点

##### < 一般消費者への教育(講座内容)について >

- ・グループワークの題材が難しかったようで、作業がなかなか進まず苦労した。
- ・題材を決定する際、理解してもらえる内容かどうか熟慮する必要がある。
- ・一般消費者や学生の場合は、プロジェクターを使用して説明する等、理解を深めるため 3 時間くらい必要であり、2 時間くらいであれば、テーマをもっと絞ったものにするべきであると思った。
- ・いろいろな高齢者に対する理解度アップが課題。
- ・オープニングのスライドを見ていただく時に、音楽を流すのを忘れたため、雰囲気作りに失敗した。
- ・講師が一方向的に話をする講座式に慣れている人たちには、講師・参加者共に、全体として一つの結論が出ないのは違和感があるようです。正解はない、みんなが考える事が大事というのは、理屈で分かっている、インパクトに欠ける。
- ・作業時は 2 グループに 1 人助言者が必要と思われ、最低 3,4 人のスタッフが必要と考えられる。
- ・参加者 10 名で 3 時間でも厳しかった。講座を 2.5~3 時間×2 回にして、アイスブレイキングと履歴書づくりで 1 講座、お買い物原則で 1 講座とした方が妥当であり、内容的にもそれぞれの作業がある程度独立して分かり易いでしょう。
- ・参加者がワークショップに慣れていたのでスムーズに進行できたが、初心者だと難しかったと思われる。
- ・時間的に余裕がなかったので、他のグループの意見や解説の時間が少なかった。
- ・準備不足が一番の反省点でした。
- ・商品自体にエコマークがほとんど付いておらず、まずプロフィールを作成する商品の購入に苦慮しました。
- ・資料の説明が簡単なため、資料の理解が薄かった。
- ・スライドの工夫が必要。
- ・トイレトペーパーなど嵩張るものは、商品選びと持込が大変だった。
- ・どうしても資料が多くなる。

- ・ 何とか終えたが時間的に2時間はきつかった。
- ・ 始めのスライドが長すぎた。5～6枚程度で妥当では、
- ・ 話がつい早口になり、よく聞き取りにくいと言われる。(すぐに改善に取り組む)
- ・ プロフィールを作成するまで出終わってしまいましたが、グループとしてはどの商品を選ぶか、選んだ理由は何かなどまで発展させていけるといいと思いました。
- ・ メニューが盛りだくさんのため、関連性を伝える事が不足した。
- ・ もっとワークショップについて勉強していかなければならないと強く感じました。
- ・ レジュメ意外に参考までにと地球温暖化などのいくつかのパンフレットを配布したが、説明しなかったので混乱した方がいた様子。

#### <学校での教育(講義内容)について>

- ・ 限られた時間内での取り組みであるため、十分な内容であったとはいえない。
- ・ 環境配慮の商品とそうでない商品の価格についても考えさせればよかった。(実はあまり価格に差がない)
- ・ 聞く対象がどのような年齢層かを考え、相手の理解を得られる資料作りが必要と感じた。
- ・ 教室の機の移動などの打合せは、直接にできず、人を介して担当教師と行ったので相違点があった。
- ・ グループは4人一組なので、初期と発表者だけでなく、4人全員に役割がある方が良い。
- ・ 講義が、多くを教えようとして準備に多くの時間を費やした。
- ・ 授業中に機の移動をするのは時間がかかり、討議時間が短くなってしまった。
- ・ 授業でのグループ討議や発表形式に慣れていないので生徒の戸惑いがあり、説明不足で時間がかかった。
- ・ 授業の中でふりかえりシートとアンケートでは時間がとられすぎる。
- ・ 商品選びを慎重にするべきであった。(差がはっきり出やすいもの)
- ・ 始めのクイズ形式の「資源には限界がある」の話は、全員が熱心に聞き入っていたが、地球温暖化の話のときに、眠りだした生徒が見受けられたので、早めにアンケートを実施して、グループ討議のために机を動かした。
- ・ 発表者が1人だと、書いた条例を自分が見て読み上げるので、条例を持って皆に見せる係と読み上げる係の2人1組の方が、聞く側の興味をひきつけやすいと思われる。

#### <一般消費者を対象とした場合の全体について>

- ・ 課題は、消費者行政との連携がうまく取れていないことです。
- ・ 学校や公民館の単発講座は基本的に1.5時間と設定されている事が多く、研修会で紹介された教材は連続講座でなければ実施困難と思われる。講座の場の開拓をしなければ、カリキュラムの実施実現は難しいのではないのでしょうか。
- ・ 消費者環境教育は重要な要素を多く含んでいて、またその範囲も広い分野にまたがるようなものなので、単発の講座では無理があるようです。
- ・ 当日は大雪のため人数が少なく、ワークショップ自体の成立ができなかった。
- ・ 連続講座のような作り方をしていくことが望ましいと思います。
- ・ 知識としては十分でも、他者に伝える技術を知りたいと言う要望を感じた。

#### <学校で生徒を対象とした場合の全体について>

- ・ 今年度は、通常の授業カリキュラムに組み入れることができず、選択授業での実施となった。その結果、対象生徒が20名のみで、全校生徒300名の6%に過ぎなかった。来年度は、「教科」「総合的な学習」等、教育課程中に位置付け、学校全体の取組にしたいと考える。

## 7. 指導者から研修会実施者への要望

今回の研修会実施者(未踏科学技術協会、グリーン購入ネットワーク、日本消費生活アドバイザー・コンサルタント協会)に対して以下の要望があった。

- ・ 世代や環境への関心レベルから、その人たちができるワークショップの内容(種類)がプロットしてあるグラフなどがあったら便利だと思います。
- ・ 「モノの履歴書づくり」の代表する商品(歯ブラシ等)のチャートがあればいいと思う。(説明用に)
- ・ より発展的な講座を計画したいとの要望があった。
- ・ 今回の参加者が実践したプログラムや結果も紹介して欲しい。
- ・ 消費者行政の一環として、消費者環境教育の重要性とその必要性の切迫性を強く国へ働きかけてください。
- ・ 資料のPPTファイルの借用が今後もできるように。
- ・ 知識と体験を統合できるような素材の提供の難しさを感じたので、今後、情報提供いただけたら助かる。
- ・ ファシリテーター養成講座を開催したらどうか。
- ・ 新たなデータPPT、教材等できたら教えてください。積極的に使わせていただきます。

## 8. 今後受たい授業・講座

参加者アンケートによると、今後受たい授業または講座のランキング上位は以下でした。

- 1 位「ものを大切に使う工夫」
- 2 位「食生活における資源・環境面や安全面などへの配慮」
- 3 位「生活環境の中にある有害化学物質」

ただし、一般消費者を対象にした場合と学校の生徒を対象とした場合では傾向が異なり以下ようになりました。

### 一般消費者

- 1 位「食生活における資源・環境面や安全面などへの配慮」
- 2 位「生活環境の中にある有害化学物質」
- 3 位「ものを大切に使う工夫」

### 学校

- 1 位「ものを大切に使う工夫」
- 2 位「環境に配慮した商品の開発や生産・販売」  
「環境に配慮した商品やその選択・購入」

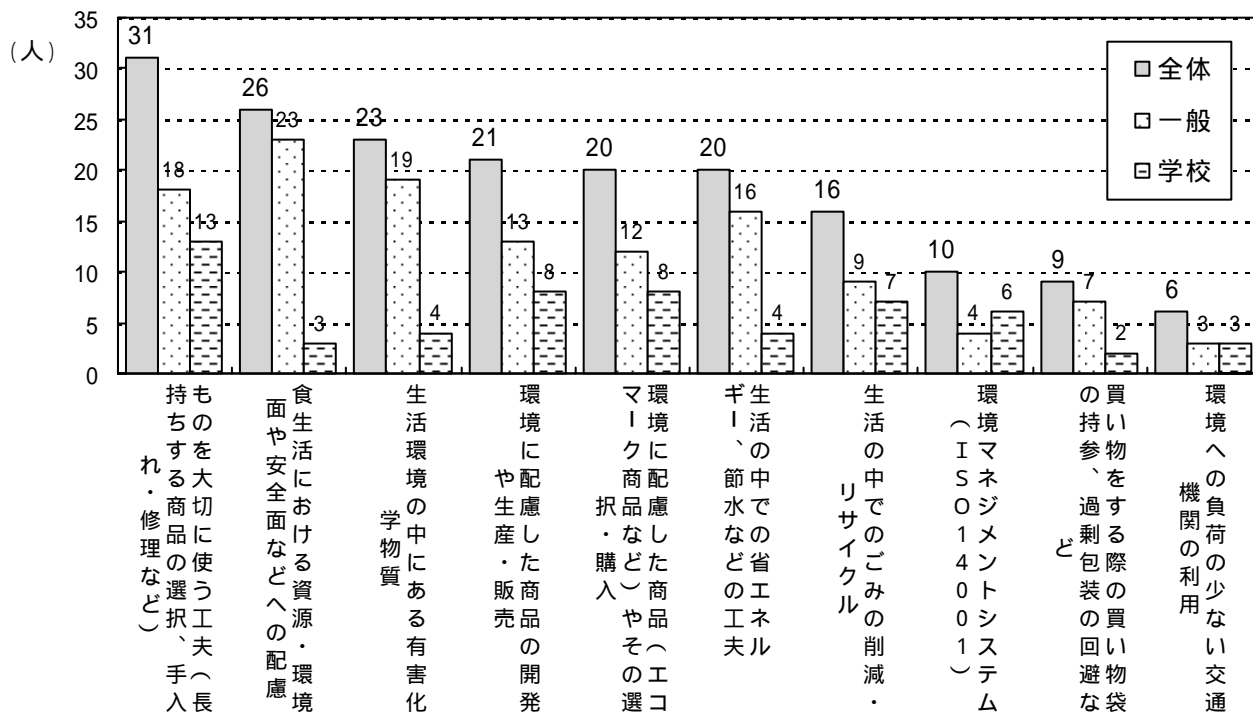


図7 今後受たい授業または講座（参加者アンケートより）

## 9. 試行結果のまとめ

地域の無料セミナーや授業の一環として今回それぞれの講座に参加した「日ごろは環境問題にそれほど馴染みのない参加者」も、受講後には「自身の生活を見直すきっかけを得た」り、「消費者の立場から考える環境問題に興味を持った」りと、少しずつではあるが意識変革をもたらしたことが事後のアンケートから分かりました。

「講師の説明は分かりやすかった」と評価した参加者が 90%、「使用した教材・資料が分かりやすかった」という評価も 80%弱と高いことから、指導者の方々には、研修会で得たものを大いに活用して頂けたと思います。

今後の指導者研修会の改善や教育プログラムの活用には、現場から実施者に対する要望も含めて相互の情報交換を活発に行い、より良い消費者環境教育を実現してゆきたいと考えています。

また教材については、指導者の方々がアレンジを加えたものも参考に、多角的に増やしてゆきつつ新たな分野の開発をめざします。

以上

2007年3月  
(社)未踏科学技術協会